

明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会における地域公共交通・再生総合事業

事業期間
21～23年度

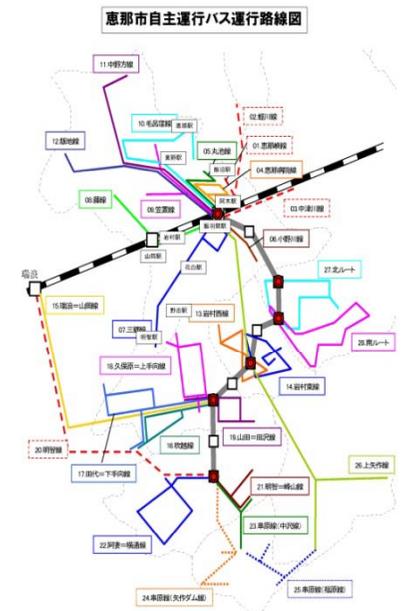
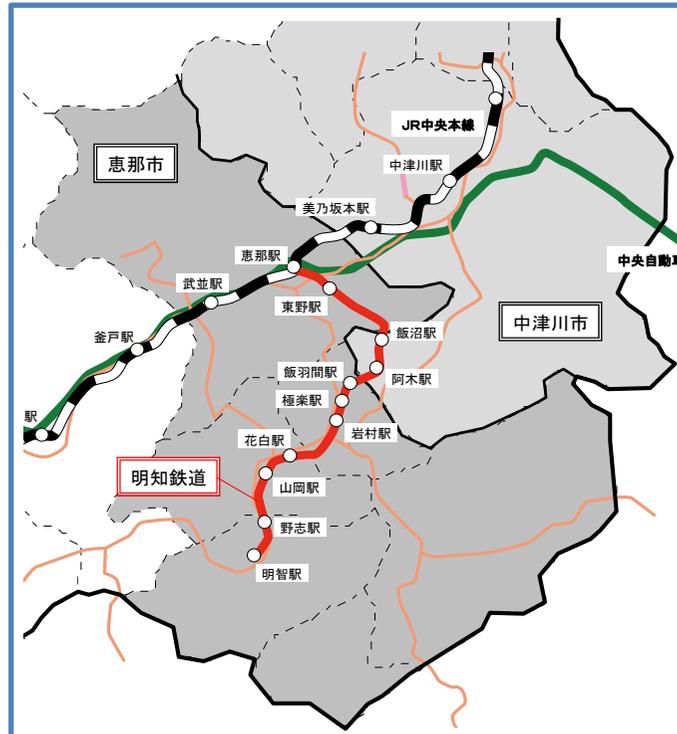
岐阜県南東部の第三セクター「明知鉄道」を幹線として、バス路線と連携した総合交通体系を確立し、利便性向上と利用促進を図り、「人と地域をむすぶ、快適で円滑な公共交通ネットワークづくり」を実現する。これによって、沿線地域におけるまちづくり・観光振興の推進を図る。

【協議会の構成員】

公共交通事業者・道路管理者・公安委員会・市民代表・恵那市観光協会・関係経済団体・明知鉄道関係団体・学識経験者・中部運輸局・岐阜県・恵那市・中津川市

事業の概要(22年度)

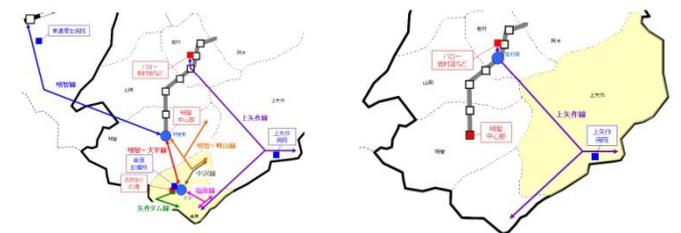
公共交通シンポジウム開催(山岡地区にて) 227千円



公共交通マップ
乗り継ぎマップ
スタンプ作成
786千円
沿線看板作成
(11駅12箇所)
1,487千円



串原・上矢作地区自主運行バスの実証運行
39,871千円



22年度 導入への プロセス

公共交通と地域住民との連携強化を目的とした「公共交通シンポジウム」の開催と、公共交通の活用方法に関する広報周知。

明知鉄道の基幹路線としての安全性の確保を機能強化を目的として、各駅に案内看板を設置。
平成22年3月にはDMVの試験運行を岩村駅～明智駅間で行い、導入の検討を図るとともに、マスコミ等を通してPR。

明知鉄道とその支線となるバスとの連携強化を目的として、平成21年10月から串原地区と上矢作地区の自主運行バスの実証運行を実施。

公共交通とまちづくり、観光振興への取組みを図るために、明知鉄道を利用した沿線温泉への乗り継ぎマップを作成。

22年度 事業の 効果

マイレール意識の高揚

平成22年9月5日に山岡町で「公共交通づくりはまちづくり」と題したシンポジウムを実施し、約120名に参加いただいた。鉄道やバスの利用状況や実態を語ることで、まちづくり・公共交通の関わりと公共交通への親しみを再認識し、マイレール意識の向上につながった。

利便性の向上(鉄道との乗り継ぎ考慮)

上矢作地区及び串原地区の自主運行バス(実証運行中)の再編により、対象駅における乗降者数が増加(岩村駅乗降が2.2倍、明智駅乗降が1.6倍)するとともに、バス利用者の満足度は82.4%と高い。ただ、串原線においては再編後利用者が低迷しており、現状を把握したうえで見直し再編が必要である。

観光利用の促進

明知鉄道沿線の温泉マップと鉄道からの観光アクセスマップを作成し、鉄道とバスを利用した観光利用の促進を図った。時刻表を入れたマップにすることで公共交通と観光のPRに努めた。

その他

DMVの実証実験におけるマスコミの報道取材やTV放映によって明知鉄道が全国にPRできた。また、実験期間中には1,300人程度の来場者があった。現在、ルート・目的・試算など各方面から導入可能性を検討中。

次年度 以降

- ◎明知鉄道の機能強化とイメージアップを図る。
- ◎実証運行路線を検証し地域にあった再編に努める。

- 明智駅ホームのバリアフリー化に伴う駅舎の修繕整備。
- 大正100年事業とタイアップした、乗りたくなる車両の整備。
- 串原地区・上矢作地区路線(実証運行)の効果を検証し、フィーダー路線として本格運行を目指す。
- 串原地区で住民アンケートを実施。地域の移動をテーマとしたシンポジウムを同地区で開催。
- DMV導入に関する検討。